

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

2023 年 6 月 29 日

福島県知事

内堀雅雄 殿



提出者

住所 福島県田村郡三春町字天王前3番地
日本化学工業株式会社 福島第二工場

氏名 工場長 石川 賢一

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0247-62-3141

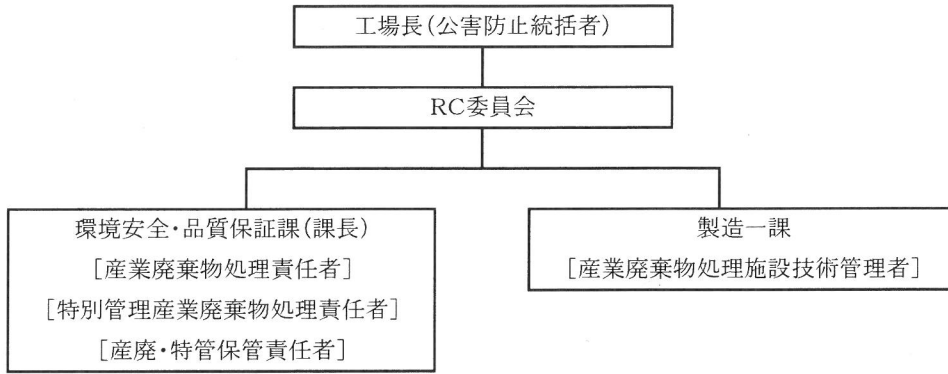
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	日本化学工業株式会社 福島第二工場
事業場の所在地	福島県田村郡三春町字天王前3番地
計画期間	2023 年 4 月 ~ 2024 年 3 月
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	162無機化学工業製品製造業、163有機化学工業製品製造業
② 事業の規模	製造品売上高 457,214 万円 (2022 年度)
③ 従業員数	148 人 (2023 年4月末現在)
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	1.廃棄物発生(各現場) 2.指定保管場所で保管 3.種類・数量等を環境安全・品質保証課へ連絡 4.運搬・処理委託業者へ依頼(環境安全・品質保証課) 5.出荷立会い・マニフェスト発行(環境安全・品質保証課) 6.処分状況確認(マニフェスト等)(環境安全・品質保証課)

(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油
	排出量	560.8 t	314.6 t
	(これまでに実施した取組) ・廃油の有価物範囲を拡大し販売している。 ・汚泥の最終埋立処分を抑制し焼却処分による減量化を推進している。 ・汚泥の再生利用業者向けに処理委託を推進している。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油
	排出量	900 t	460 t
	(今後実施する予定の取組) ・CNに係る全社取り組みとして、廃油の発生量抑制、リサイクルの推進に関する取り組みを開始した。		

産業廃棄物の分別に関する事項

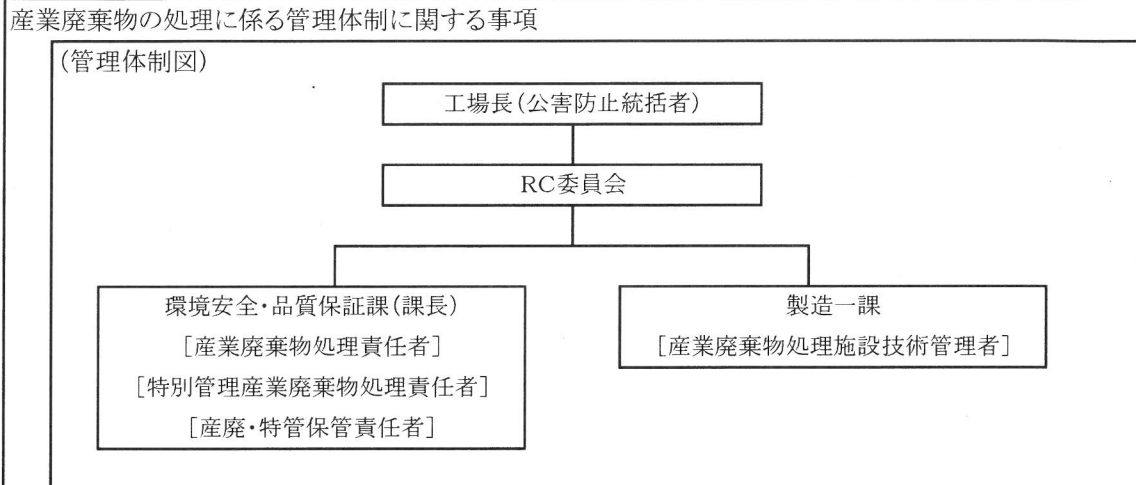
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	314.6 t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	500 t
(今後実施する予定の取組)			
自ら中間処理の廃油を識別し、有価物化を推進していく。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油
	全処理委託量	560.8 t	0 t
	優良認定処理業者への処理委託量	476.7 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	81.5 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
(これまでに実施した取組) ・汚泥の再生利用業者向けに処理委託を推進している。			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油
	全処理委託量	900 t	10 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	200 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	100 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃プラスチック
	排出量	3069.5 t	26.8 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃プラスチック
	排出量	5010 t	25 t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類の中から再生利用可能なポリ袋、ポリ缶、ポリドラム類を分別保管し、有価物化を推進していたが環境規制の影響で全て産業廃棄物となってしまった。(最終の行き先は変更なし)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃プラスチック
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃プラスチック
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃プラスチック
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	3069.5 t	0 t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃プラスチック
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	5000 t	0 t
(今後実施する予定の取組)			

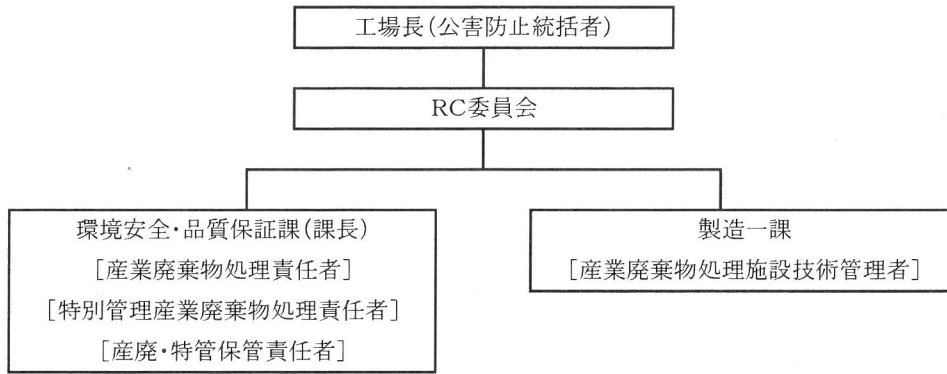
(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃プラスチック
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃プラスチック
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃プラスチック
	全処理委託量	0 t	26.8 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	10 t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	廃プラスチック
	全処理委託量	10 t	25 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	10 t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	木屑	ガラス、コンクリート、陶磁器類
	排出量	23.6 t	3.2 t
	(これまでに実施した取組) ・最終埋立処分していたガラス屑の一部を焼却処分とし減量化を推進している。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木屑	ガラス、コンクリート、陶磁器類
	排出量	20 t	5 t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	木屑	ガラス、コンクリート、陶磁器類
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木屑	ガラス、コンクリート、陶磁器類
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	木屑	ガラス、コンクリート、陶磁器類
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木屑	ガラス、コンクリート、陶磁器類
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

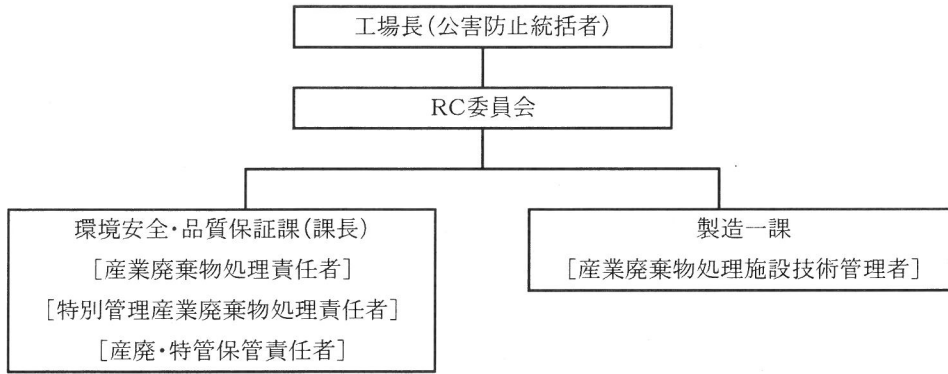
(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	木屑	ガラス、コンクリート、陶磁器類
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木屑	ガラス、コンクリート、陶磁器類
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	木屑	ガラス、コンクリート、陶磁器類
	全処理委託量	23.6 t	3.2 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	23.6 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
(これまでに実施した取組)			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木屑	ガラス、コンクリート、陶磁器類
	全処理委託量	20 t	10 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	20 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	水銀使用製品産廃
	排出量	0 t	0.2 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	水銀使用製品産廃
	排出量	5 t	1 t
	(今後実施する予定の取組) ・工場敷地内の蛍光灯、水銀灯を全てLED化するべく対応を進めている。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	水銀使用製品産廃
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	水銀使用製品産廃
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	水銀使用製品産廃
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	水銀使用製品産廃
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組)			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

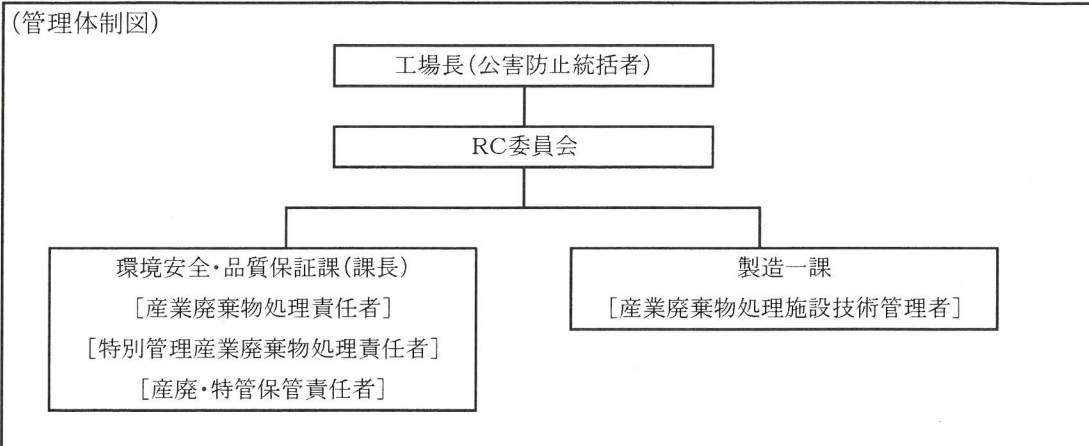
①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	水銀使用製品産廃
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	水銀使用製品産廃
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	水銀使用製品産廃
	全処理委託量	0 t	0.2 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	0.2 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	水銀使用製品産廃
	全処理委託量	5 t	1 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	1 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	金属くず
	排出量	21.7 t	9.2 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	金属くず
	排出量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	金属くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	金属くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	金属くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	金属くず
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	金属くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	金属くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度(2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	金属くず
	全処理委託量	21.7 t	9.2 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	9.2 t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ・がれき類 ⇒ 自社焼却炉の耐火レンガ更新に伴い発生した廃レンガを処分した。 ・金属くず ⇒ 製造建屋解体に伴い、薬品付着貯槽等を外部委託により処理した。 いずれもスポット案件であり、継続発生はしない。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	金属くず
	全処理委託量	0 t	0 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。